

## 人穴富士講遺跡の歴史

人穴が歴史資料に登場するのは、鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』が最初である。『吾妻鏡』には、人穴探険の様子が記され、後に浅間大菩薩の霊験譚「人穴草子」としてまとめられた。「人穴草子」は近世に富士講の隆盛もあり広く普及した。

戦国時代末から江戸時代初期に、富士講の開祖である長谷川角行が人穴に籠もって修行し、「仙元大日神」の啓示を得たとされる。角行の教えは、江戸時代中期以降、江戸を中心に広まり数多くの富士講が組織された。人穴は、角行修行の地や入寂の地、仙元大日神がいる場所として富士講の人たちに「人穴浄土」といわれ、参詣や修行のために人穴を訪れる信者も多く、人穴には先達の供養碑や記念碑などの碑塔が建立された。

近世、人穴には光保寺（大日堂）があったといわれているが、どのような施設であったのか不明である。富士講の曼荼羅に「光保寺食成」とあり、修行中の行者の世話をする所であったのではないとも言われ、人穴の管理や行者の世話に当たった御法家赤池家が光保寺に当たるのではないともいわれている。

また、溶岩洞穴「人穴」の上に「大日堂」の建物があったと考えられているが、明治初年の神仏分離令による廃仏毀釈で光保寺（大日堂）は廃され、人穴浅間神社が置かれた。しかし、昭和17年（1942）には人穴が陸軍少年戦車兵学校の演習地となり、周辺住民とともに人穴浅間神社は移転し、昭和29年（1954）現在地に復興した。なお、富士講の衰退もあり、碑塔の建立は昭和39年（1964）以降行われていない。



明治時代の赤池家

## 世界遺産 富士山 構成資産マップ



### 【アクセス】

〒418-0102 富士宮市人穴206



JR身延線富士宮駅から  
車で40分



東名富士ICから  
車で約50分

発行：富士宮市富士山世界遺産課  
問合せ：平日 0544-22-1111（市役所代表番号）  
休日 0544-52-1620（案内所）

# 世界遺産 富士山

## 構成資産



# ひとあなふじこういせき 人穴富士講遺跡

# 人穴富士講遺跡

人穴富士講遺跡は、人穴浅間神社の境内にあり、溶岩洞穴「人穴」と富士講講員が建立した約200基もの碑塔群が残されている。

『吾妻鏡』によると、13世紀には人穴が「浅間大菩薩の御在所」として神聖視され、富士山信仰に関係する場所であったとされる。

また、富士講の開祖である長谷川角行が修行した場所として19世紀には信仰を集め、参詣や修行のため訪れる人たちも多かった。

標高：約700メートル

周辺環境：富士山西麓の森林原野地帯。

江戸時代には、甲州街道（中道往還）や郡内道（人穴道）が通っていた。



## 溶岩洞穴人穴

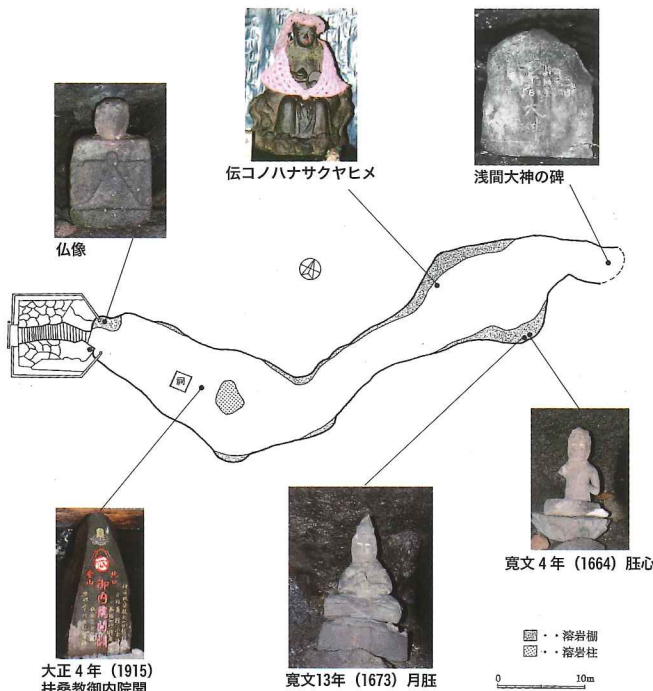
溶岩洞穴人穴は、新富士火山旧期溶岩（11000～8000年前）に属する犬涼み山溶岩流の末端にできた総延長83.3メートル、高さ最高約6メートルの洞穴で『吾妻鏡』に「將軍家（源頼家）駿河国富士の狩倉に渡御す。かの麓に又大谷あり。これを人穴と号す。」とあり、富士山麓に多く見られる溶岩洞穴の中でも、早くから知られた溶岩洞穴である。

この溶岩洞穴が「人穴」といわれるのは、そこに籠もって修行した人がいたことに由来するとか、太穴が詛ったもののだといわれている。



洞穴入り口

洞穴の中は、天井は偏平で床面は平坦、入口からすぐの所に溶岩柱があり、最奥部は水が溜まっている。また、江戸時代のはじめ頃～大正年間の石造物が6基祀られている。



溶岩洞穴「人穴」内部の石造物

## 人穴の碑塔群

人穴浅間神社境内には、富士講の人たちが建立した碑塔が約200基ある。これらは、各講の先達の供養や大願成就記念として建てられたもので、大半は墓塔形式のものである。

碑塔には、講の所在地や講員名・先達名・講印（講のシンボルマーク）等が刻まれている。銘文によると、講の所在地は関東地方が大半であり、中でも東京都が圧倒的に多い。関東地方を中心とした富士講の広がりをうかがわせる。

碑塔の建立は17世紀に4基見られるが、ほとんどが18世紀中頃からで、19世紀中頃に最盛期を迎えた。

### 都道府県別碑塔数

(単位：基)

東京都	103	静岡県	5	その他	3
埼玉県	22	群馬県	4	都道府県不明	62
千葉県	21	茨城県	3		
神奈川県	7	山梨県	3	合計	233



碑塔群

## 建立目的

### 墓碑供養碑

教祖・講祖・先達などの追善供養

### 顕彰記念碑

富士登拝や大願成就など偉功の顕彰

### 祈願奉納碑

石仙・石神や石灯笼・玉垣などの奉納



長谷川角行の宝篋印塔